

---

# 青春卒業

言葉小僧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青春卒業

### 【コード】

N6138D

### 【作者名】

言葉小僧

### 【あらすじ】

僕が体験した実際あった青春時代の話し

幸せになれると信じていた

楽しい家族になれると疑ってもいなかった

こんなにも簡単に崩れるなんて思わなかった…  
ある夏の事

僕には彼女がいた

その彼女の名前はさゆ（仮名）

僕は17歳でさゆは一つ下の子

さゆは僕の一つ下だった

17歳の僕は一人暮らしをしていた

さゆは僕の家で同姓をしていた

さゆとは喧嘩が多くよく別れると言っ話になりました

さゆと付き合い初めて1ヶ月

さゆとは別れてしまった…

僕はさゆが好きで忘れる事ができなかった…

僕は忘れるためにさゆの友達、ゆい（仮名）と知り合い、付き合い事になった

ゆいと付き合い合ってもやっぱりさゆを忘れる事ができなかった…

不安定な状態で付き合い合っているのも嫌になり別れる事になった…

その1週間後僕は忘れる事ができなかったさゆにもう一度付き合い合ってくれないかと告白をした

さゆは2日考えてもう一度付き合い合ってくれることになった

しかし僕は最低な事をしてしまった

ゆいとも付き合い合っしまい二股をしてしまった

それからというもの、さゆが寝たらゆいの家に行く、という事をし

ていたのだ

そんな事をしてはいけないともわかっていたのに…

そんな状態が二週間続き、ゆいとは別れる事となった

それからさゆともうまくいけなくなり、また別れてしまった…

僕はさゆを今でも忘れる事のできない存在なのかもしれない

それからというもの、さゆが好きなのにゆいとまた付き合い始めた

言い訳みただけで17歳で一人暮らしは寂しく、誰かに一緒にいてほしかった…

ゆいとまた付き合い始めて三週間たった頃

僕はさゆにはゆいと付き合いってる事を隠して告白をしていた

そしてさゆがもう一度だけ付き合い合おうと言ってくれ、ゆいにはメールで

「さゆとに戻ったから連絡取れやん」

と言いました

するとゆいから電話がきて

「最悪、遊びやったんやな」

と言われました

僕はさゆにゆいと付き合っている事を知られたくなかったので電話でさゆに

「ゆいが俺とさゆ戻ったの知って私も付き合ってるってゆうかもやから、無視してな、それ嘘やから」

と言いました

しかしそれは僕の嘘でしたそしてさゆと戻って3日

僕の嘘がばれてしまい、ゆいと二股してた事もばれて、絶体絶命でした

そして話し合いをする事になりました

僕はまた最低な事をしてしまいました

ほんとに好きなさゆと別れるしかなくなり

怒りに身を任せ、ゆいに手を上げてしまった：ゆいは痛そうにうずくまり、話し合いに一緒にきていた男友達も必死に止めましたが僕は止まらず蹴ったり殴ったり…

そしてさゆは

「私の友達に暴力する人なんか嫌や！」

と言われ、ようやく僕は止まりました…

その後、僕はさゆと別れたくなく、ずっと

「別れたくない」

と言っていました。がやはり別れる事になりました…

それからというもの

僕はゆいとは仲直りをして、友達としてまた一緒に遊ぶようになり  
ました

少しして、ゆいの優しいところや一緒に楽しい事に気づき、好き  
になったのです

しかしゆいは彼氏がいました、それを知っていて遊んでいました

無理矢理誘ってきてもらっていました  
僕はゆいに

「前は遊びで付き合ってたけど、まじでゆいの事が好きや！彼氏別  
れて付き合ってくれ」

と言つとゆいは

「考えさせて」

と言いました

それから1週間がたち、ゆいからメールがきました

「ごめん、彼氏に連絡取るなつて言われた…」

とききました

僕は腹が立ち、ゆいの彼氏の番号を調べ電話をしました

「お前家どこな！今からいつたるから話しよら！」

と言い、ゆいの彼氏の家に行きました

そしてゆいの彼氏の家に行き、ゆいの彼氏を見た瞬間殴りつけ

「ゆいと別れろ！せやないと本気でしばいたるわ！」  
と言いました

ゆいの彼氏は

「別れます」

と言い



僕は別れたのでゆいに告白をしました  
ゆいは迷いながらも付き合う事になりました

そして僕は友達と一緒にゆいの元彼氏に電話をし

「金用意しろ！」

など金を巻き上げるようになりました  
そして悪事は全てばれ、僕は逮捕されました

2ヶ月ほど鑑別所に入り出てきました

ゆいは、僕が逮捕されてる間に二人の男と体の関係をもっていました

僕は顔が広く、すぐにその事実を知ったのです  
そして僕は許せなくなり

ゆいとは別の女と体の関係を持ち、その後ゆいの友達の、さゆり（  
仮名）を好きになったと言いました

そしてゆいから少ししてメールが届きました

「話あるから来てほしい」

僕は幼なじみに

「行かなあかん！」

と言われ行きました

ゆいは一向に話をしようとせずついに黙っていたので僕は

「話ないんやつたら帰るで」

と言い外に出たところ、ゆいが追い掛けて来て

「話すからまって…」

と言いました

僕はイライラしていたので

「なんや！はよゆえよ！」

ときつく言いました

するとゆいは

「あんとの子供がおるねん」

と言いました、幼なじみが行けと言ったのがなぜわかりました

ゆいは僕の幼なじみに子供できたと相談していたのだ僕は

「俺との子供かわからんし、信用できへん!」

と言い、帰りました

しかしその夜ゆいから

「戻って一緒にいたいと言われましたが」

どうせ他の男とまた体の関係をしようと思つと思

「どうせ他の男いくんやろ?信用できへんし無理」

と断りました

それからは僕は色々な女の子と付き合い、遊びまくっていました

そして半年が過ぎ、僕の友達が

「今からうちこいよ、遊ぶぞ!」

と誘いがきて行ってみるとゆいがいたのです

子供は墮ろしていて、イメージがかなり変わっていました  
その翌日、幼なじみが幼なじみの彼女に電話をして、僕に

「今ゆいの家なんやけど終電なくなつたから車で迎えに来てくれ!」

と伝言を頼まれたと言ってきて、幼なじみの彼女が寝ている僕に伝えにきました

それは実は嘘で、ゆいと話させるために呼ぶために言ったらしいです  
僕は嘘とも知らずゆいの家に行きました

するとゆいが

「その話し嘘やで」

と言い、眠たいので理解つきず少しして嘘とわかりました

そしてゆいが車に乗り話しをしていて

また付き合おうと言う話しになり、付き合おう事になりました

そして付き合い始めて1ヶ月クリスマスの少し前に妊娠している事がわかりました

クリスマスと一緒にユニバーサルへ行く予定だったのにあまりアトラクションに乗れなどの話しを笑いながらしました

そして僕は決意をしました

ゆいに

「結婚するか」

と言ったのです

ゆいはすぐに

「いいよ、結婚しよ」

と言いました

クリスマスが過ぎ、ゆいの両親に結婚したいと報告にいくと

「二人で考えたんやったら反対じゃん、好きにしたらいい」

と言われ認めてもらえました

しかしその2ヶ月ぐらいは僕が仕事が忙しく、正月も近いため結婚するのが先のばしになりました

18歳と17歳…早すぎたのでしょうか？

そしてその時にもやはり喧嘩をして、別れそうにもなりながらやっ  
てきました

しかしやはり喧嘩もたえず、3日間連絡さえしなくなり、3日目の  
夜ゆいから

「別れよ、疲れた」

とメールがきました

たしかに僕は過去に最低な事もしました、しかし子供はどつなるんだ、自分の勝手に子供また死ぬのか？

真剣に考えた時間は嘘なのか？

疲れた

たったこれだけで子供を殺すのか？

青春は一步間違えれば人を殺す事になる…

僕はもう、青春を卒業します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6138d/>

---

青春卒業

2010年10月28日04時29分発行